



「だんだん月の形が変わってみえます」 ～皆既月食(かいぎげっしょく)～

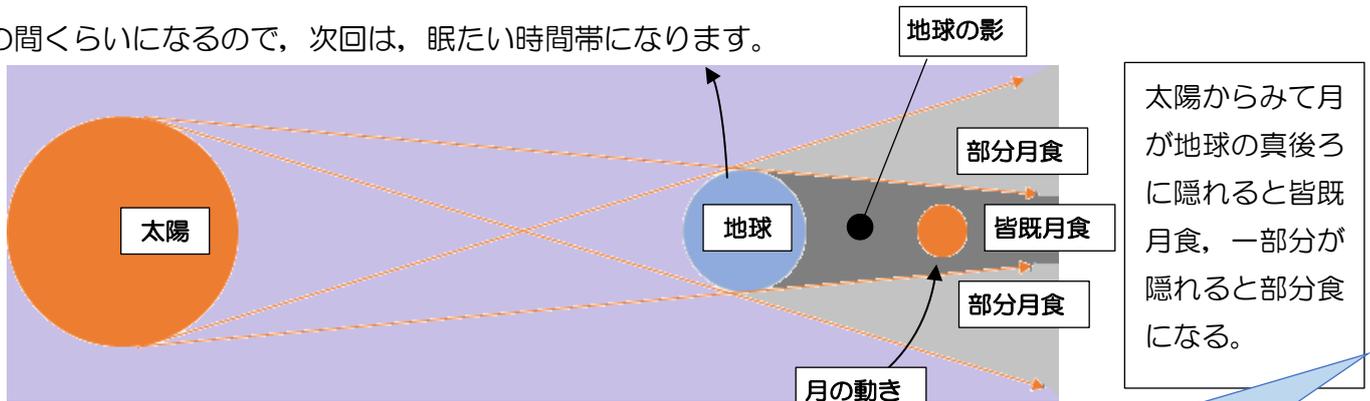
11月8日(火)は、日本全国で“皆既月食”が見られます。月がまだ上り切らず、見にくい地域もあるようですが、尼崎では建物にさえぎられなければ、よく見えそうです。子どもたちが観察するのももほどよい時間帯で、天気もよいようなので、絶好の観察日和と言えそうです。

午後6時過ぎに東の空の低い位置(やや北寄り)をご覧ください。今日は満月です。左下の一部分が午後6時9分から欠けたように見え始めます。やがて、月全体が地球の影に入り、赤黒く見えるようになります(よく観ていると色が変化して見えることもあります)。この皆既食の状態が約85分続いた後、左下から元に戻り始めます。そして、南東の空に上がる頃には、再び、満月となって輝き始めます。

自ら光を放つ太陽と違って、地球や月は、自ら光を放つ星ではありません。地球から見て、月が輝いて見えるのは、太陽の光が反射して見えるからです。太陽と、太陽の周りをまわっている地球、地球の周りをまわっている月が絶えず動き続けています。この三つの位置関係によって、**満月であった月が、地球の影に入ってしまう、皆既月食が起こります。**

また、皆既月食中の午後8時31分頃に月が天王星を隠す「天王星食」が起こります。それまで皆既月食中の左側に薄く見えていた天王星が月の影に入ってしまう、午後9時20分ごろに真下近くから出てくるまで隠れて見えなくなっています。天王星は、とても条件のよい空でも肉眼で見えるかどうかの明るさの星です。明るい都市部やチリが多い場所などでは、見つけにくいでしょう。幸い、皆既月食中で月が暗いため、双眼鏡や望遠鏡などを使って探してみると見つけれられるかもしれません。ちなみに、皆既月食と天王星食が同時に起こるのは、442年ぶり、次回は322年後だそうです。

日本で、次にこの皆既月食が起こるのは、3年後の2025年9月8日だそうです。真夜中から未明の間くらいになるので、次回は、眠たい時間帯になります。



【皆既月食・部分月食のイメージ図】

2022年11月8日(火)

部分食の始まり	午後6時 9分 (左下の一部分が欠け始める)
皆既食の始まり	午後7時16分 (全体が欠け始める)
食の最大	午後7時59分 (地球の影に最も深く月が入る)
皆既食の終わり	午後8時42分 (左下から見え始める)
部分食の終わり	午後9時49分 (満月に戻る)

《注意》
 ※子どもさんだけで、戸外での観察は控えてください。
 ※暗いところでは、足元に気をつけましょう。
 ※上着を着用し、寒くないようにして観察してください。
 ※その他、危険なことがないようご注意ください。